

世田谷村日記

石山修武

八月三十日

七時新宿待合わせ、石井君等と川越へ。川越で河野鉄骨河野君に拾ってもらい信濃追分けへ。十時信濃追分け。オーナーズビルクラブで幸脇夫人と会う。打ち合わせ後現場へ。昼食後、町役場法務局、佐久市役所を廻り、十六時前、前橋へ向かう。十八時大分遅れて前橋着。森田親子にソバをごちそうなる。新職人ユニオンの構想を森田兼次氏に話す。二十一時過東京。荻窪駅前でビールを飲んで散会。タクシーで世田谷村に戻る。二十二時過。夜半、台風が強し。

八月三十一日

昨夜は一晚中台風の風が荒れて、世田谷村はヨットの如くに揺れた。変な家だと我ながら笑う。私は笑えるが家内は笑わない。いささかのやり取りがあつた。十一時研究室。雑事。夕方迄。十九時前、社長若松氏来室。新大久保駅前の近江屋ソバ店へ。若松氏にチョツとした頼み事を申し出てアツという間に了解され、準備周到に用意されていたものの如く手渡される。不思議極まるね人生って。二十二時京王線笹塚通過。

九月一日

七時半聖跡桜ヶ丘待ち合わせ。八大建設西山社長等と伊豆半島へ。十時過伊東市役所。十一時過伊豆高原。縄張り、位置決め。

十三時地鎮祭。陽射しがきつい。十三時半過修了。打ち合わせ。十四時過発、松崎へ。十五時半伊豆多賀經由松崎町大沢、大沢温泉ホテル着。依田専務とホテル改修の打ち合わせ。十七時迄。亡くなった依田敬一前松崎町長には大変お世話になり、勉強もさせていただいた。恩返しだと思つて、一生懸命取り組んでみる。社長の依田夫人にもお目にかかり、あいさつ申し上げる。十七時過松崎町役場。森秀己町長公室長等と美術館の改修の件で打ち合わせ。なつかしい役場の皆さんとお目にかかれて良かった。十八時松崎発。修善寺、沼津、東名、中央道を経て深夜世田谷村に戻る。ハードな一日だった。

九月二日

午前中杏林病院定期検診。担当医より酒しばらく止めると宣告される。ロシア行以来毎日飲んでるからな。昼、世田谷村に戻り、一人で昼食と小休。何だか仕切りに佐藤健の本が読みたくなって、一、二冊パラパラと拾い読み。死ぬ迄アイツは肉声で書いていた。しかし、今の私の状態は佐藤健が酒に頼り始めたのと似ているような気もする。まさか、アツチから呼んでいるんじゃないだろうな。十五時半研究室。大沢温泉ホテルの件すすめ方を決める。忍田邸、伊藤邸、幸脇邸打ち合わせ。今朝、医者から本当に少し休んだ方がいいですよと忠告されたのだが、これでも本人は休んでいる積りなのだから我ながらあきれれる。大沢温泉ホテルの件は、広報を含めた企画書を作る事を決めた。久し振りのコマースシャル戦線である。名門中の名門ホテルのデザイン戦略のディテールプランするのは面白い。若いスタッフの教育にも良いだろう。

九月三日

朝方、故佐藤健のルポルタージュ仏教再読する。健の遺言で長男の論と毎日新聞記者がインド・ベナレスに行き、ガンガに遺骨を流したのは聞いていた。健にしては、ベナレスのガンガに骨を流して、魚に喰われないと言うのは少々通俗に過ぎると考えていた。しかし、読み直した本の中に、健の初めてのベナレス体験、そしてガンガの水に入った体験が書かれてあり、すでにガンガの中程から水面すれすれに眺めた河岸のベナレスの現実の町を、死後の世界から眺めている現実（歴史）の風景のようだとの記述があった。あれは感傷的な思い付きではなかった様だ。健は死に際して、本当に生きる事を願ったに違いない。正しくは再生を希求した、つまり輪廻を信じようとした。夢想、観念の類いではなく、リアルな再生を信じようとした。世界の何処かで再生した健がすでに生きているかも知れない。魚になつてか、虫か鳥か、再び人間かそれは解らない。それをようやく感得できた。考えてみれば私は健を自分と同類と見て、それ故にあなどつていたところがあった。何度となく、私にヘロドトスを読めと言いつつ残したのも聞き流していた。読んでみたい。

十一時前新宿西口よりバスで研究室へ。十三時よりミーティング、松下空調忍田邸打ち合わせ。M1ゼミ、GA杉田インタビュー等。十八時目白椿山荘にて、西沢健さんをしのぶ会。栄久庵憲司さんにお目にかかる。十九時過会場を抜ける。二十一時半世田谷村帰着。栄久庵さんと色々話したい事があつたけれど、余りに人が多くて、出来なかった。早めに会わなくては。